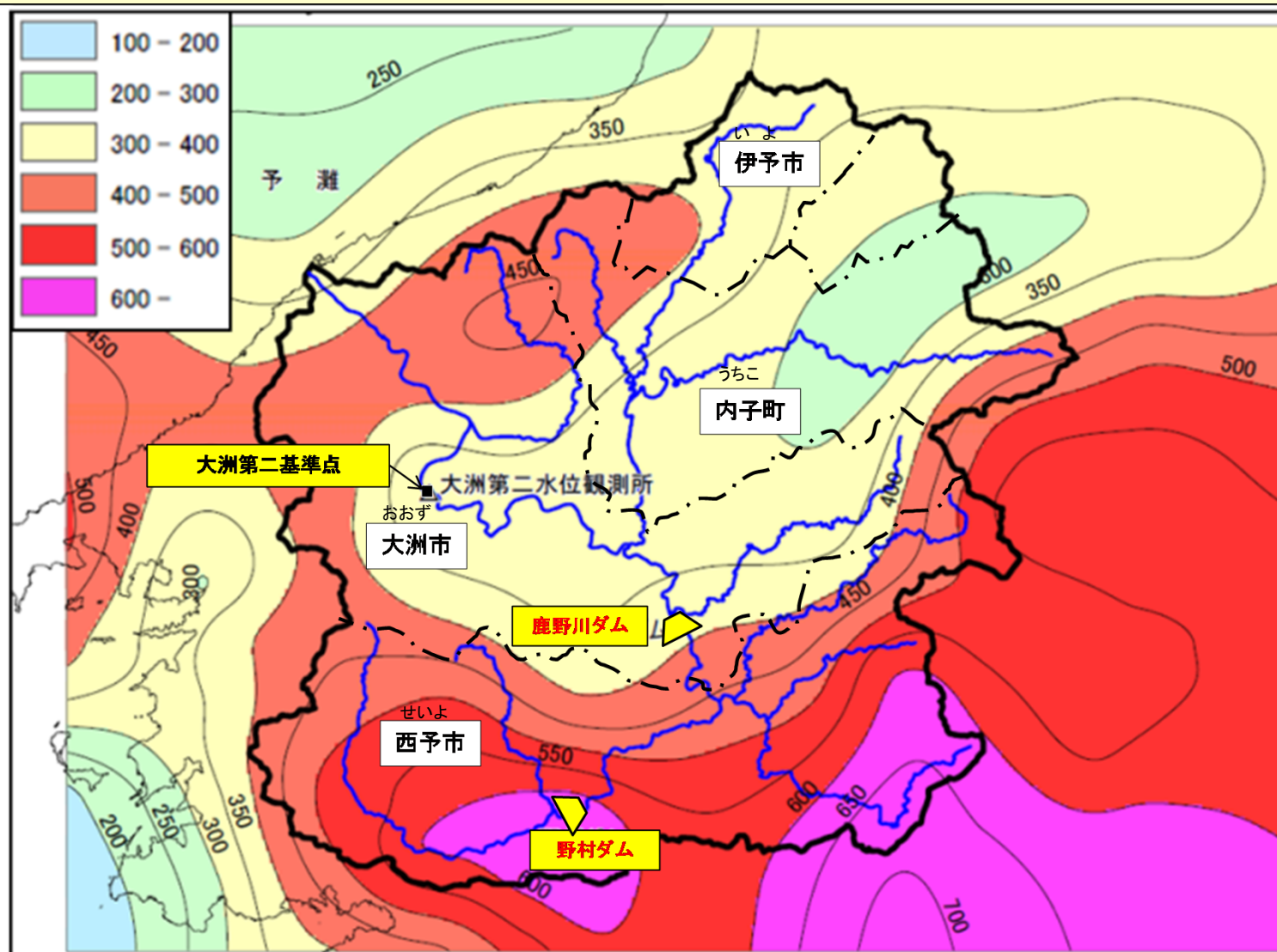
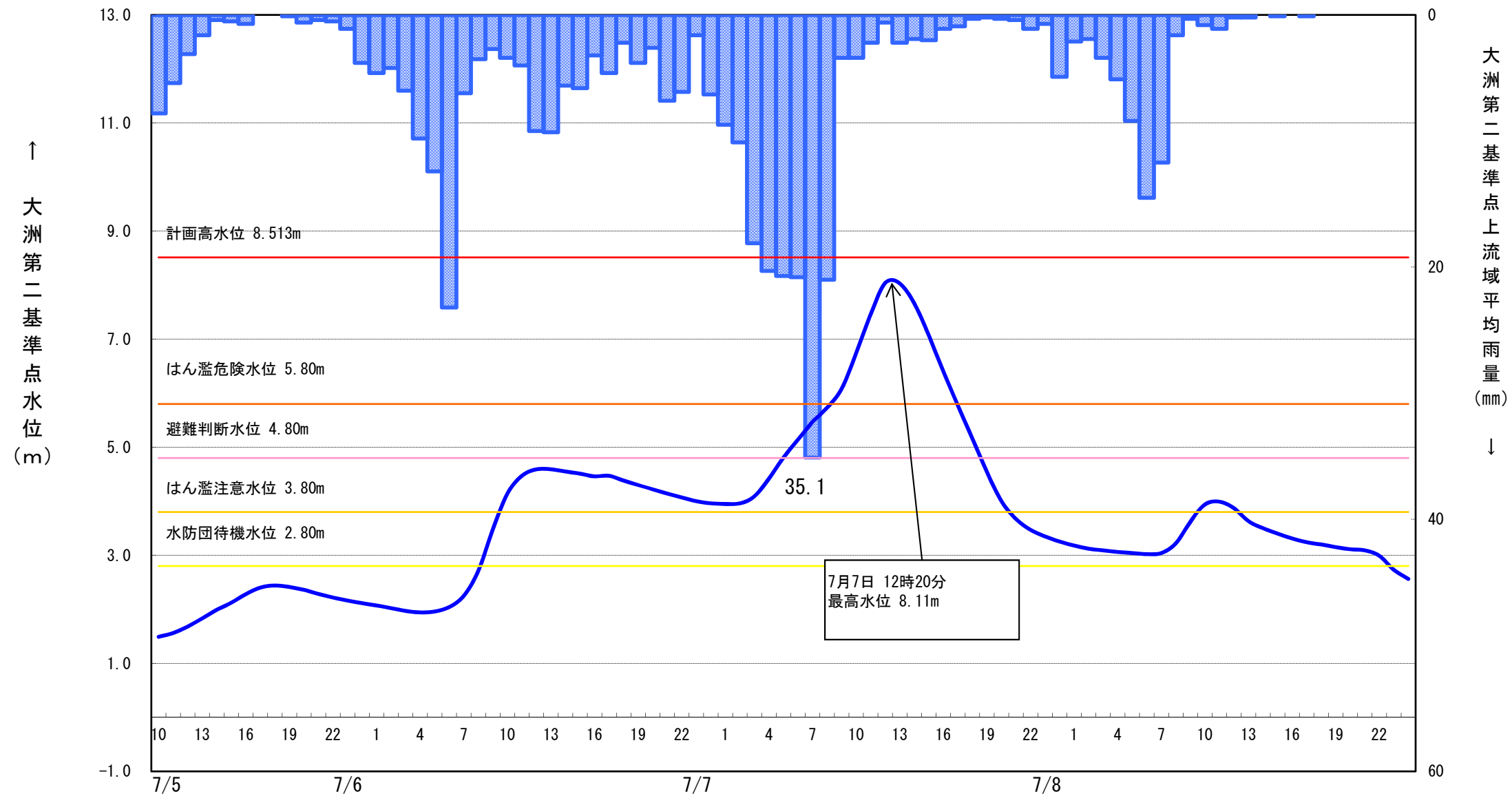


肱川流域の気象概要

- 48時間降水量観測史上1位の443mm/48h(野村ダム上流:気象庁宇和観測所)を記録(第2位335mm)。
- ダム最大流入量も野村ダムで1,942m³/s(第2位806m³/s)、鹿野川ダムで3,776m³/s(第2位2,244m³/s)となりダム管理開始以降最大を大きく上回る流入量を記録。
- 大洲第二水位観測所(肱川橋)では、観測史上最大となる8.11mを観測。

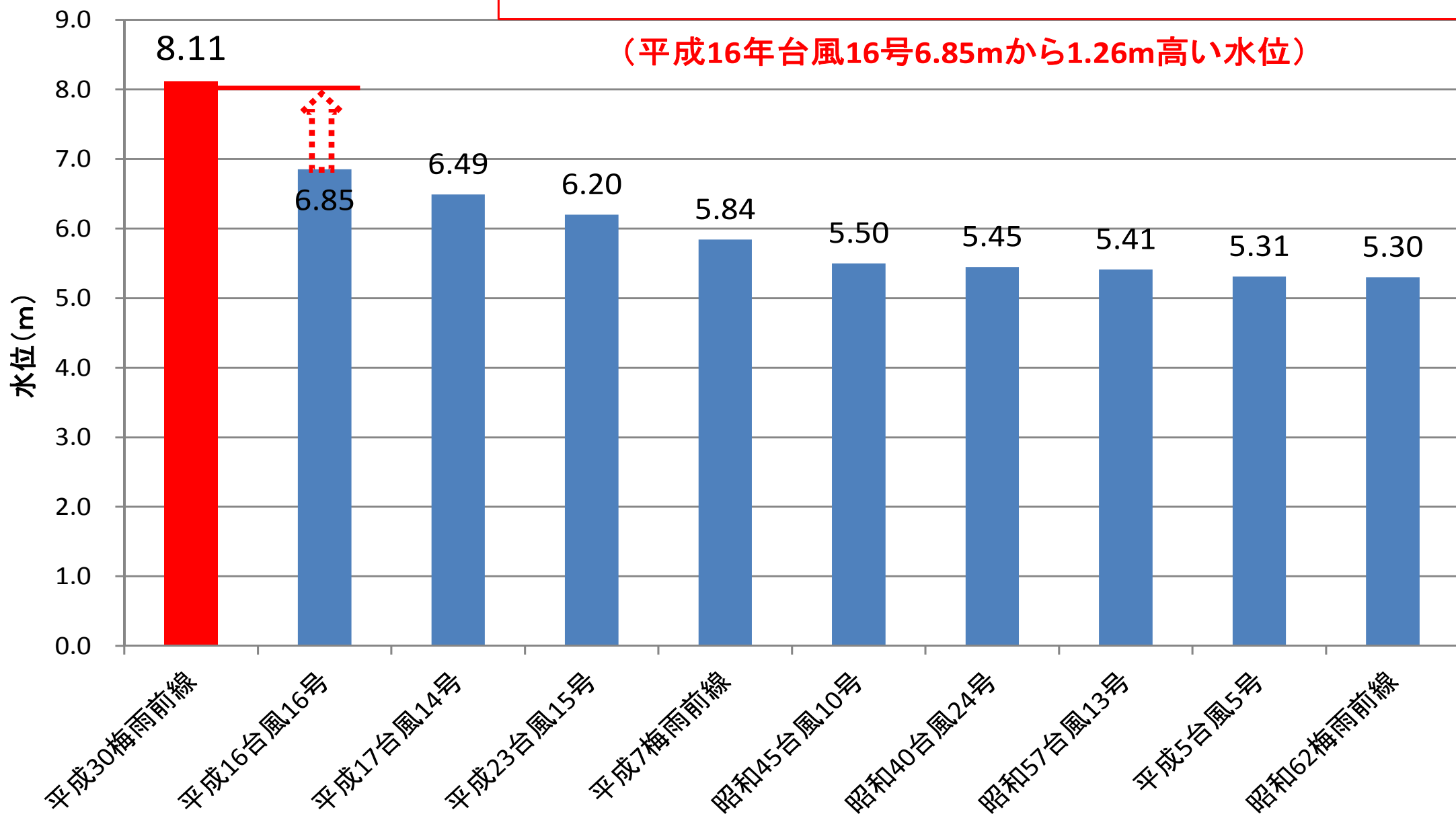
平成30年7月4日～8日
 肱川流域等雨量線図(mm)



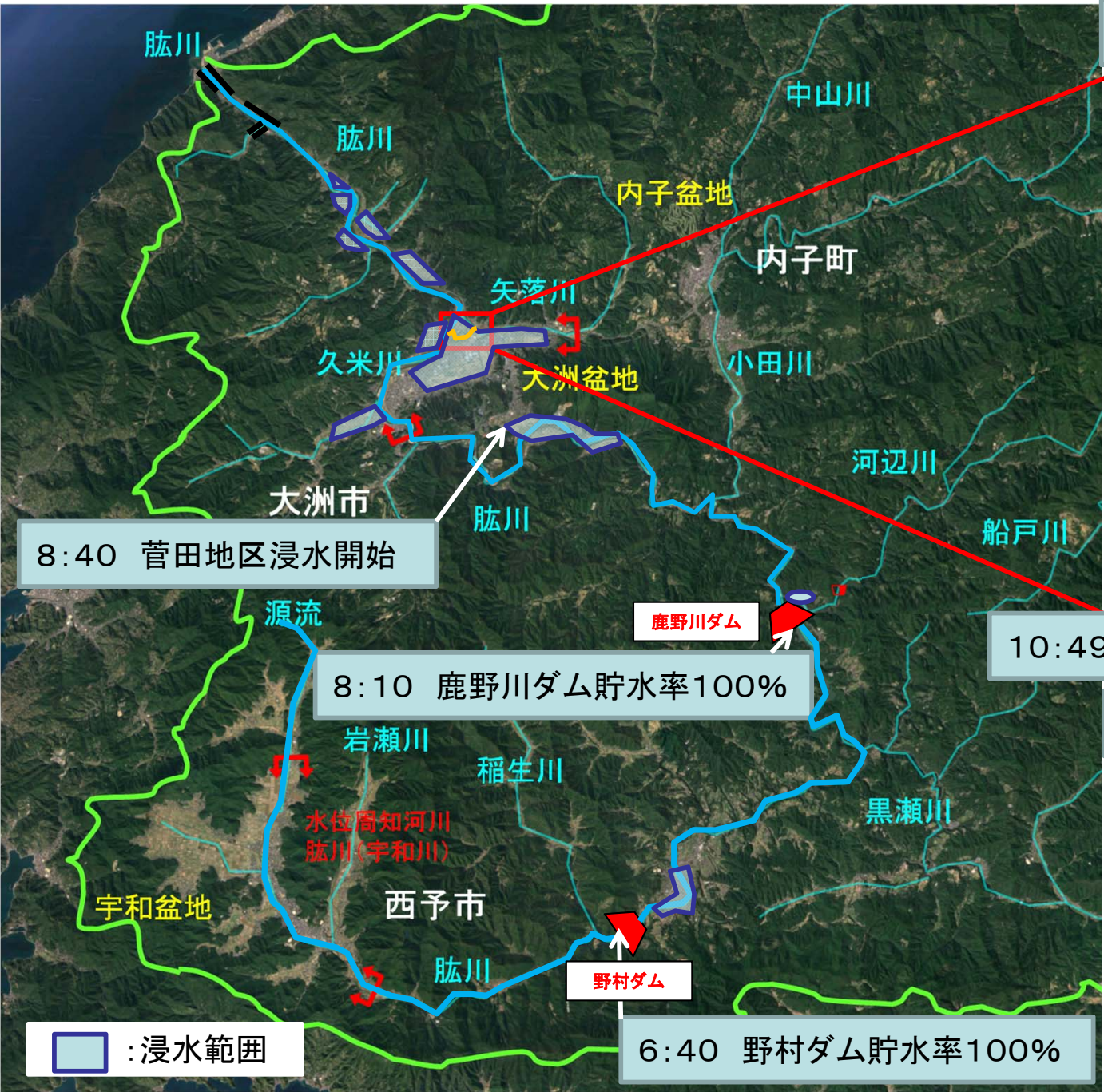


詳細な水位記録が存在する昭和38年以降の最高水位を観測

(平成16年台風16号6.85mから1.26m高い水位)



肱川流域における浸水状況



① 8:59 東大洲暫定堤防越流開始



② 10:40 二線堤越流15cm手前



③ 10:49 二線堤越流開始



④ 13:10 二線堤内水位ピーク(13.32m)



東大洲地区周辺の被災状況

被害状況は下図のとおりです。

※浸水範囲・最大水深は速報値であり、今後修正する可能性があります。

凡例

○ : 浸水箇所

住宅地(二線堤の背後)

最大水深約1.8m



喜多医師会(二線堤からの越流)

最大水深約0.8m



国道56号

最大水深約1.8m



肱川

二線堤

大洲

松山自動車道

最大湛水深

最大水深約4.5m

国道56号(十夜ヶ橋付近)

最大水深約2.8m



愛媛県大洲庁舎前

最大水深約0.6m



地区名

浸水面積

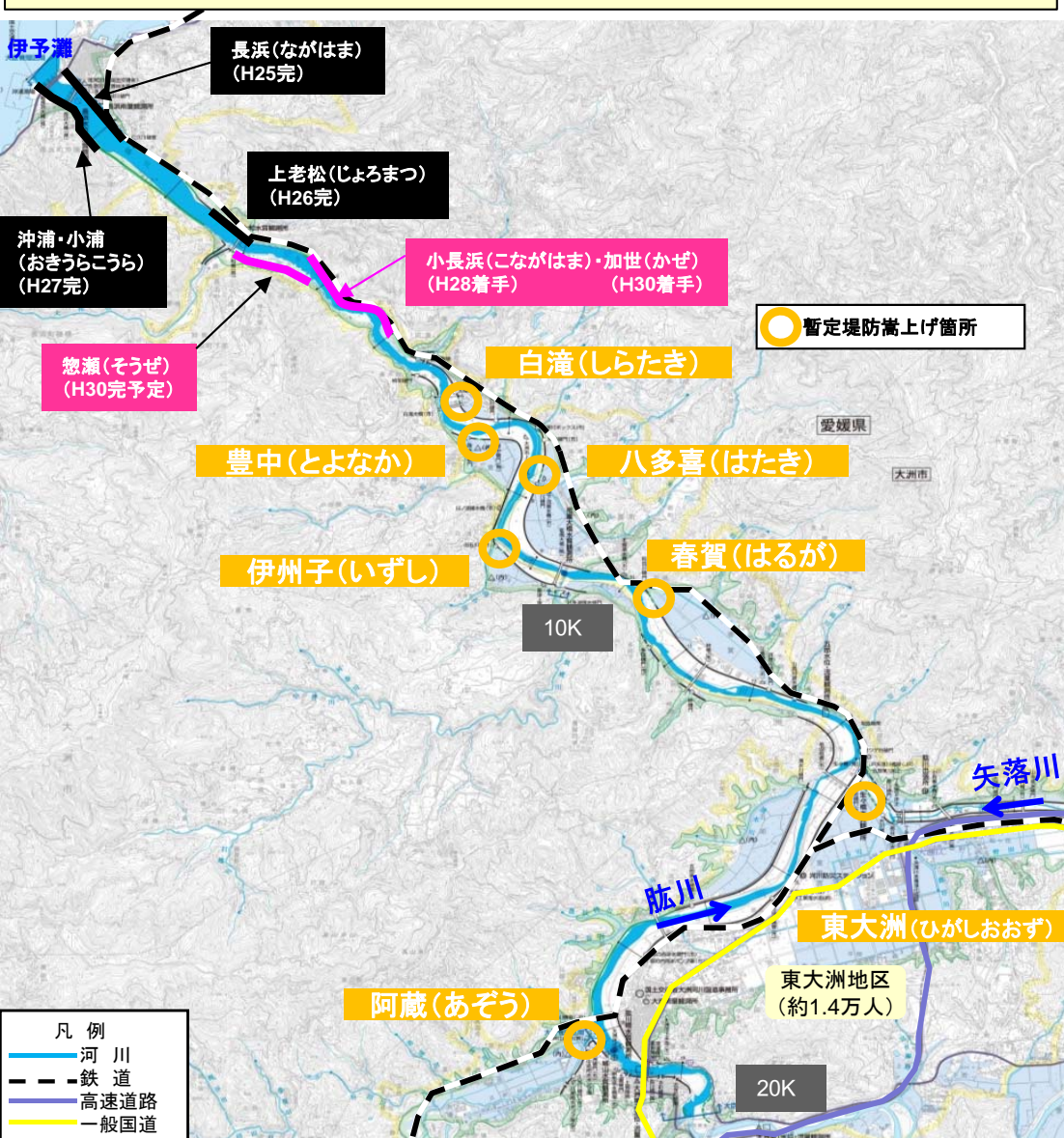
東大洲

約440ha

地区名	浸水面積
東大洲	約440ha

現状の堤防整備状況

- 激特事業(H7)により、東大洲地区を含む無堤地区に暫定堤防が設置
- 現在は下流から築堤事業を実施中。



★近年災害の再度災害防止対策として、東大洲地区の暫定堤防の一部嵩上げを早期に実施するため、無堤箇所対策を重点的に進めている。

- ・大和(上老松)箇所：築堤(水防災) ※H26完
- ・沖浦・小浦箇所：築堤 ※H27完
- ・惣瀬箇所：築堤 ※H30完予定
- ・小長浜箇所：築堤 ※H28着手
- ・加世箇所：築堤 ※H30着手

- 暫定堤防の嵩上げによる再度災害防止対策が急務。
- H30に暫定堤防の段階的な嵩上げを実施。

